# 令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 土屋 中学校 ）　　学校番号　２４１

【様式】

| 目指す学校像 | ＜希望あふれる学校＞　・生徒が輝く学校　・生徒を育む学校　・活気ある学校 |
|---|---|

| 重点目標 | |
|---|---|
| | １　「真の学力」を育成する学習指導の改善<br>２　自己肯定感を高める学校行事等の実施<br>３　小学校や地域と協働し生徒が主体となる活動の実施<br>４　全ての教職員が学び、高め合える研究発表会の実施 |

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日令和５年２月１７日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | （現状）<br>○全国学力・学習状況調査（Ｒ３）では、国語・数学ともに、全国平均以上であったが、市平均には達していない状況である。<br>○市学習状況調査（Ｒ３）では、「将来の夢や目標をもっていますか。」に対して肯定的な回答が２、３年生で市平均を上回ったが、１年生では下回っている。<br>○新体力テスト（Ｒ３）では、ボール投げは全学年とも市平均値を上回ったが、反復横跳びは市平均値を下回っている。<br>（課題）<br>○学びに向かう力を高め、各教科において基礎基本の確実な定着を図る必要がある。 | 生徒の基礎学力の定着、学びに向かう力の育成 | ①　全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査結果を、生徒自身が振り返り、今後の学習計画を見直す機会をつくる<br>②　総合的な学習の時間や STEAMS TIME では、体力の向上などにも目を向けた教科横断的な学習を実施する。 | ①　全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査、新体力テストなどで市平均を上回ることができたか。<br>②　生徒が主体的に課題を設定し、総合的な学習の時間等に取り組めたか。 | ①　全国学力・学習状況調査、新体力テストでは、市平均を上回ることはできなかった。さいたま市学習状況調査は、結果がまとまり次第、分析を行いたい。<br>②　事前学習を生かして修学旅行等を実施し学びの質の向上を図った。STEAMS TIME では、第３学年で、走力アップに向けて科学的に検証して取り組むなど、新たな実践を行うことができた。 | B | 基礎学力の定着や体力向上が課題となった。各教科等を越えて、学校全体での取組が必要である。本年度行った STEAMS TIME の取組内容については、学年間で共有し、３年間を見通した取組として、計画を作成することが必要である。 | ・グローバル・スタディ科の取組では、学習指導が改善され、成果が出ているということを聞いている。新聞記事にも取り上げられていたので、そのような学習指導の改善を継続してほしい。<br>・学校教育目標「夢に向かって」の実現について、今後、どのように取り組んでいくのか、ビジョンを示してほしい。<br>・ICT を活用した学習には、メリットはあるが、デメリットもあるので、その点に留意して学習指導の改善を進めてほしい。 |
| | | 授業改善の取組、学びの個別最適化を目指した１人１台端末の活用 | ①　各教科における１人１台端末の効果的な活用など、授業改善に向けた校内研修を実施する。<br>②　スタディサプリなどを活用して個別最適学習を進め、基礎基本の定着を図る。 | ①　「よい授業」アンケート結果を分析し、授業改善に努め、第２回の数値が市平均より上回ることができたか。<br>②　学校評価（生徒、保護者）の授業にかかわる項目で肯定的な回答の割合が昨年度を上回ったか。 | ①　「よい授業」アンケート結果は、昨年度市平均を 0.2 ポイント上回ったが、因子別では、３因子で上回り、１因子（授業マネジメント）で下回った。<br>②　学校評価（保護者）では、61.7%が肯定的な回答となり、昨年度から 1.7 ポイント上昇した。 | B | 生徒が答える「よい授業」アンケート結果を向上し、さらに学力をつける授業改善に取り組むことが課題である。個別最適な学びを実現するため、スタディサプリからの課題配信を継続して活用するなどが必要である。 | |
| 2 | （現状）<br>○学校評価（生徒）では「土屋中学校で生活するのが楽しい。」に肯定的な回答した生徒の割合は 95.9%であったが、「生徒にとって魅力的な学校行事が実施されている。」では、94.2%（昨年度比 - 2.3 ポイント）であった。<br>○コロナ禍では、生徒会活動などが縮小、中止になるなど、生徒の主体的な活動場面の設定や活動の可視化が、今後必要である。<br>○けが防止や感染対策など生徒、保護者が安心して通える学校づくりに努めているところである。<br>（課題）<br>○学校で学ぶ意義が見つからない、学習や学校生活への不安があるなど、不登校傾向、配慮が必要な生徒がいる状況である。 | 生徒の思いを取り入れた学校行事等の工夫<br>生徒会本部役員、中央委員会を中心とした生徒会活動の活発化 | ①　学校行事をはじめ、学習の取組などで生徒が主体的に話し合う機会を充実させる。<br>②　生徒が積極的に取り組むことができる学校行事等を年間通して実施する。<br>③　中央委員会を定期的に実施し、生徒会活動や委員会活動が連携し、活発に活動を進める。 | ①　生徒の話し合いから出された意見を学校行事等で実現することができたか。<br>②　生徒主体の運営による取組について年間を通して実施することができたか。<br>③　学校評価（生徒）の学校行事にかかわる項目で肯定的な回答の割合が昨年度を上回ったか。 | ①　体育祭、修学旅行などの学校行事では、話し合いの中で生徒が主体的に取り組んだ。<br>②　生徒会主体で赤い羽根街頭募金、小学校でのあいさつ運動、服のチカラプロジェクトなど、生徒主体で実施できた。<br>③　学校評価（生徒）では、「私は学校行事に積極的に取り組んでいる」に対して、昨年度より 0.7 ポイント上回った。 | B | 学校評価（生徒）「土屋中学校で生活するのが楽しい。」に肯定的な回答は 93.6%、「生徒にとって魅力的な学校行事が実施されている。」は、94.1%。<br>学校行事、生徒会活動など、生徒の話合い活動が活発になったが、コロナ禍における制限のある中での実施となっている。今後、生徒の思いを形にするために、話し合いの時間の確保など事前準備に時間的余裕をもって取り組める日程で学校行事等を実施する。 | ・小学６年生と中学生が交流する「つぼみの日」の取組では、意欲的に活動する先輩の姿を見させてもらった。その姿を見て６年生は中学校に進学することについて、安心するとともに、夢が広がるなど先輩の姿が手本となった。<br>・西区スポーツ大会等で、土屋中学校の子どもたちが熱心に活動し、顧問の先生方も協力的である。地域としても顧問の負担にならないように大会を運営して今後も協力したい。 |
| | | 安全な生活を確保した学校行事等の工夫 | ①　常に最新の科学的知見を取り入れながら、学校における対策を考え、保護者、生徒に適切に情報を伝える。 | ①　コロナ禍で縮小した様々な活動について、生徒の意見を取り入れ、安全に留意しながら改善することができたか。 | ①　学校の現状を踏まえ、その制約を緩和する方向で教育活動を改善し、保護者の参観機会についても設定するなど、その都度見直しを行った。 | B | 保護者に安心して通わせられる学校にするため、感染状況などに応じて臨機応変に対応を検討する必要がある。 | |
| 3 | （現状）<br>○学校運営協議会準備委員会で「子どもたちに身につけさせたい力」としてあがった「自己肯定感を高め、やり遂げることができる力」をどのように身につけさせるか、今後、具体的な方策について協議する。<br>○今まで実施してきた小学校、公民館や地域などで中学生が活動する場が減少し、地域とのかかわりが薄れてきている状況も見られる。<br>（課題）<br>○コロナ禍の教育活動では、地域や近隣の学校との豊かな体験活動については、制限が続いている。 | 学校運営協議会を中心とした校外での生徒の活躍の場の設定 | ①　学校運営協議会の働きかけにより学校・家庭・地域が主体となった取組について情報発信して、生徒が地域での活動に参加し活躍する。 | ①　学校運営協議会の働きかけにより生徒が地域で活動する機会が設定され、参加する機会が増加したか。<br>②　学校評価（地域）で「中学生が地域行事の参加に積極的である」の項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 | ①　学校運営協議会を中心に、イベントの運営、支援などのボランティア活動を新たに設定することができた。<br>②　学校評価（地域）では、80.7%が肯定的な回答（「分からない」を除く）で昨年度より 6.6 ポイント上昇した。 | A | 参加生徒の増加が課題である。次年度は、紙媒体のみならず、電子媒体も活用した広報活動、活動の意義についての丁寧な説明など、主体的に参加したいと思うような呼びかけが必要である。 | ・ボランティア活動に土屋中の生徒が多く参加してくれて、地域でも大変助かっている。<br>・スポーツ大会やイベントに生き生きと参加し、大変素直な生徒であるという印象である。<br>・保護者としては、ボランティア活動について、手紙等で募集の状況を知ることにより、さらに子どもたちに参加を促すことが可能となるかもしれない。<br>・地域への貢献をホームページで発信するなど、掲載記事の充実に向けて検討していただきたい。 |
| | | 地域や小学校、高等学校との交流 | ①　小学校、高等学校との積極的な交流により、地域における活動の充実を図る。<br>②　公民館等での中学生の活動を増加し、校外での生徒の活躍の場を増加する。 | ①　小学校、高等学校と連携した取組が実現できたか。<br>②　公民館等、校外での生徒の活動の場を増加することができたか。また、参加者数も増加したか。 | ①　小学校でのあいさつ運動、高校の生徒会との交流など、まだまだ限定的ではあるが取組を実施することができた。<br>②　公民館、社会福祉協議会、青少年育成会等と連携し、ＳＤＧｓやボランティア活動などにおける活動の場が増加し、参加者数も増加した。 | B | つながりをさらに広げ、児童生徒同士のかかわり合いを充実したい。さらに地元企業との連携を基にしたキャリア教育の充実のため、計画を見直す必要がある。 | |
| 4 | （現状）<br>○研究委嘱３年目で研究をまとめ、グローバル・スタディ科研究発表会を１１月に実施し、成果を発表する。<br>○様々な教育課題に適切に対応できるよう、実践的な校内研修が必要である。<br>（課題）<br>○グローバル・スタディ科を中心に進めている研究を全教職員で成果を共有し、深める必要がある。 | 全教職員で研修を進め、高め合えるＧ・Ｓ科研究発表会の実施<br><br>指導力向上のための研修の充実 | ①　全教職員による研究推進体制を確立し、研究発表会を開催する。<br>②　コンプライアンス等について専門的な見地をもった外部講師を招いた校内研修を実施する。<br>③　文部科学省教科調査官の指導助言について、全教職員で共有し、研究を推進する。 | ①　全教職員がかかわって、研究を進めることができたか。<br>②　授業改善や指導力向上のための校内研修等が実施できたか。<br>③　ＧＴＥＣや英検ＩＢＡなどの英語力の調査結果、さらには他教科や学校生活等において、生徒は成長することができたか。 | ①　研究発表に向け、全ての教職員がＧ・Ｓの授業を参観し合う機会を設け、全ての教科等で取り組んだことを研究成果にまとめることができた。<br>②　文部科学省教科調査官から指導助言を受け、Ｇ・Ｓ科を中心に授業改善に取り組み、ＩＣＴの活用に向けた校内研修も実施した。<br>③　ＧＴＥＣでは、トータルスコアで市平均を大きく上回った。 | A | 教職員の業務改善につながるＩＣＴの活用、校内研修の継続的な実施が必要である。指導力の向上とともに、業務改善による効率化を図っていく必要がある。 | ・グローバル・スタディ科の研究発表に向けて、全教職員が協力して取り組み、GTEC などの客観的なテストでも学習成果があげられたのでよかったと思う。<br>・よりよい組織運営に向けて、教職員のよい点を認め、全教職員が一丸となって力を発揮できるようにしてほしい。<br>・業務改善について、より具体的な策を示してほしい。 |